

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 31日

事業所名 沖縄コロニー児童デイサービスみやぎ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8名			クールダウン等で使用する個室を設けています。	今後も活用していきたい。個室では死角になり行き届かない場面无いよう周知を行っています。
	2	職員の配置数は適切である	8名			児童の特徴も踏まえた上での職員配置を行えるよう調整しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8名				
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8名			毎日の個別記録記入時を利用して振り返りを行っています。	月に1回、職員ミーティングを実施し、情報、目標の共有を行います。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7名	1名			日ごろの周知や研修等での勉強会を実施していきます
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7名	1名		HP上での自己評価表の公表を実施しています。	自己評価表の集計を保護者及び職員への配布を行います。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			8名		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8名				今年度はコロナ禍の影響により、全体研修の実施に至らなかった為、改善していきます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8名				申し送りや児童の様子から得た情報共有を行っています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7名		1名		新しく入った職員への周知が出来ていなかった。今後は定期的な共有意識と連携を行います。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8名			対応、支援への意見を出し合い共有しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7名	1名			室内活動でのパターン化があり、今後工夫が必要だと感じています。一人一人の特性を捉えた、成長に合わせた集団活動のバリエーションを増やしていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7名	1名			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8名			日々の打ち合わせで計画に沿える活動になっているか調整助言に努めています。	その日の児童の様子を捉えた上で活動内容変更を行う事もあり、臨機応変な対応ができる様努め、必要であれば計画の見直しを行っています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8名			業務始めの打ち合わせは毎日行い、昨日の振り返りを行い、注意点を話し合っています。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8名			ヒヤリハットがあった時や記録記入時、その都度話し合い共有しています。	日々の小さな気づきを話し、意見を出し合えるよう努めます。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8名			支援者の困り感を拾い、皆で話し合っています。	記入時の時間に、常に職員間での振り返りと報告・連絡・相談ができる機会として努めていきます。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8名			職員間で各児童ごとに年に2回実施し、検討事例がある時はその都度見直しの為の話し合いを持っています。	職員で児童の実態、支援について共有する為の話をする事で児童との関わり方の振り返りの機会になっている為、今後も継続して取り組んでいきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7名	1名		集団活動がメインであるが、児童一人一人の特性を踏まえながら、自立度を考え工夫し目標設定を行っています。	児童の特性等を踏まえた上で組み合わせさせた支援を行う。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8名			常に職員同士で事前すり合わせを行った上で参加するようにしています。	継続して、参加した職員が全体にも報告を行い、職員間での情報共有に繋げていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8名			保護者からの連絡、学校ホームページ等を活用し、急な変更にも柔軟に対応できるよう努めています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8名			医療ケアの対応児童の利用はありませんが、発作等の対応マニュアルを作成し、共有しています。	緊急時のかかりつけ医や搬送先を把握し、貼りだして職員全体に共有を図っていきます。保護者への周知は不十分な為、年に一回の使用配布と一緒にお渡しするよう改善します。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6名	1名	1名	同一建物内に児童発達支援の事業所が出来たことで、これまで以上に日々の情報共有がしやすくなりました。	同一建物内の児童発達支援事業所との間での共有と相互理解の機会は持っていると思うが頻度は少ないように感じる為、今後は積極的な関わりが持てるよう努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7名	1名			要望に応じて対応していますが、頻度は少ないため、当事業所からも情報発信していけるよう対応方法を検討します。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			8名		ほぼ行っていない状況の為、今後の課題としていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			8名		コロナ渦の影響もあり交流はないが今までも機会は持っていない為、状況に応じて検討します。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			8名		コロナ渦の影響もあり交流はないが今までも機会は持っていない為、状況に応じて検討します。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8名			申し送りの際にデイでの様子を伝え、変化がある時は報告し、家庭での気付きの伺いや様子を確認しています。	視点の違いはある為、職員間でのすり合わせやミーティング実施で話し合い、方向性や課題を共有できるよう、努めていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			8名	外部機関でのペアレントトレーニングの研修を案内するようにしています。	実施に至っていませんが、機会があれば実施を検討します。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8名				新規契約の時の説明のみである為、定期的に周知確認と発信ができるよう検討していきます。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8名			デイでの支援関わり方を共有し、日々の関わり、活動に取り入れています。	要望と相談があれば行っていますが、積極的、かつ定期的な行動はしていない為、学び努めていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			8名		コロナ禍の影響があり、今年度は交流機会を作ることができませんでしたが、コロナの終息後より実施していけるよう検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8名				苦情の受付はありませんでしたが、継続して、意見箱の設置や受付窓口の体制を整えていることの周知を行っていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6名	2名			行事は開催できなかったが、保護者への連携は連絡帳や送迎時に行っています。
	35	個人情報に十分注意している	8名				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6名	1名			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			8名		コロナ禍の影響もあり実施できていないため、コロナの終息後より計画を検討していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7名			マニュアルの作成は行っています。	職員間へはミーティング時に共有しているが、保護者への通知などは行っていない為、改善します。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名			年に2回実施しています。また、職員間で報告書を参照し共有しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5名	2名	1名	全職員へ周知できるよう研修機会を作っています。	今年度は外部機関の研修には参加できませんでしたが、事業所内での研修を実施しており、コロナ禍の影響を考慮した上で適切に研修機会を確保していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			8名		対象児童がおりませんので、支援の必要な児童の場合に検討していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			8名		対象児童がおりませんので、支援の必要な児童の場合に検討していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8名			ヒヤリハット報告書に沿って話し合いを行い、繰り返しなよう意見を出し合っています。	その都度、実施し事故にならないよう努めます